

第一回実行委員会報告

村研三十周年記念のための実行委員会の第一回会合が、一月九日（土）に中央大学会館で開催されました。出席者は蓮見音彦、長谷川昭彦、高山隆三、高橋明善、安原茂（以上関東地区）、安孫子麟（東北地区）、酒井恵真（北海道地区）の各委員と事務局から島崎、吉沢の他に、本年度事務局を手伝う樫村悦子（院生）、三本松政元（院生）でした。

事務局の島崎より前回の運営委員会の報告があり、それをふまえて議題の審議に入り、次のように決定しました。なおこの決定は次の運営委員会に提案して審議してもらおうこととなります。

一、共通課題について

共通課題は、前回の運営委員会で大方の支持をえた「村落の變貌と村落社会研究——三十年の歩みをふりかえって——」とする。大会日程は次の通りとする。

十月十六日（土） 午後 講演会（東北大学）

十月十七日（日） 大会（茂庭荘）

十月十八日（月） }

十六日午後の講演会は、中村吉治会員（経済学）、福武直会員（社会学）、喜多野清一会員（社会学）の三人を予定し、早速交渉することになりました。

ところで共通課題の具体化について、安孫子委員から東北地区

の会員間で討議された内容が紹介されました。それは、これまでの村落研究の理論を段階に分けて構成しようとするもので、試案としては、例えば、(一)明治—大正期—村落制度形成期—村落共同体論の再検討の意味をこめて、家連合論と機能論をとりあげる、(二)昭和ファシズム期—国家体制、行政と村落、(三)戦後期—農民層分解と村落、(四)現代—生活構造論と村落解体、といった構成が紹介されました。委員会としては、共通課題の柱については、今後、研究会を通して会員の討議のなかで具体化することに決定しました。

共通課題の報告者は、公募し、実行委員会で課題に即して編成することになります。例年おこなっている自由報告は、運営委員のアンケート調査にもとずき、三十周年記念大会の今年度は、時間の関係で行なわれないこととし、したがって、公募しないことにします。

二、記念事業について

(一) 特別記念号の出版はとりやめ、『村落社会研究』の通常号に、三十周年記念講演会および課題報告を収めることにします。また研究動向については、「村落研究十年の歩み」（村落社会研究会年報第九集、一九六三年）以降の二十年間の研究動向を載せません。

(二) 座談会は通常の研究会で必要に応じておこなうことにします。

三、研究会

第一回研究会は、共通課題を具体化するきかけをつくる意味

で、戦後の村落研究の動向を整理するため、専門を異にする実行委員から、それぞれの研究史を報告してもらおうことになりました。報告者は安孫子麟（経済学）、蓮見音彦（社会学）の両委員、日は二月六日（土）、午後二時半―七時、場所は中央大学会館に決まりました。